

国内マグネシウム 2023 年需要実績/2024 年需要予測

一般社団法人日本マグネシウム協会

(単位：トン)

分類\年	2019	2020	2021	2022	2023	23/22 比	2024 予測	24/23 比 予測
ダイカスト	5,100	4,700	5,200	4,900	4,400	89.8%	4,700	106.8%
鋳物	190	100	100	100	90	90.0%	100	111.1%
射出成形	1,200	960	1,000	1,000	1,100	110.0%	1,200	109.1%
展伸材	800	700	800	700	700	100.0%	800	114.3%
その他合金	300	200	200	100	100	100.0%	100	100.0%
構造材小計	7,590	6,660	7,300	6,800	6,390	94.0%	6,900	108.0%
アルミ合金添加	17,000	14,500	16,500	15,000	14,500	96.7%	15,000	103.4%
鉄鋼脱硫	4,140	3,000	3,500	3,400	3,080	90.6%	3,400	110.4%
ノジュラー鋳鉄	2,700	2,520	2,500	2,600	2,300	88.5%	2,400	104.3%
チタン製錬	1,010	1,000	440	725	1,200	165.5%	1,000	83.3%
化学・触媒	1,500	1,350	1,300	1,500	1,400	93.3%	1,600	114.3%
添加材小計	26,350	22,370	24,240	23,225	22,480	96.8%	23,400	104.1%
防食その他	925	1,000	1,230	1,150	800	69.6%	1,000	125.0%
内需小計	34,865	30,030	32,770	31,175	29,670	95.2%	31,300	105.5%
輸出	225	102	140	490	333	68.0%	400	120.1%
総需要	35,090	30,132	32,910	31,665	30,003	94.8%	31,700	105.7%

※マグネシウム地金、ピレット、粉粒等の新材の輸出入量・出荷量を基に算出しています。

<2023 年の需要実績>

- ①2023 年の国内マグネシウム需要量は、構造材向けのマグネシウム合金需要量が前年比 6.0%減の 6,390 トン、添加材向けの純マグネシウム需要量が同 3.2%減の 22,480 トン、防食その他向けが同 30.4%減の 800 トン、輸出が同 32.0%増の 333 トンとなり、全体では同 5.2%減の 30,003 トンとなった。2023 年の前半まで、半導体等の不足や、金属材料の主要な需要先である自動車分野の回復の遅れが続いたことの影響を大きく受け、総需要量は 2 年連続でマイナスという厳しい推移となった。
- ②マグネシウム合金を使用する構造材向けの需要は、主要な自動車分野の回復が遅れたことにより、主要なダイカスト部門が前年比 10.2%減の 4,400 トン、鋳物部門が同 10.0%減の 90 トンに減少することとなった。鋳造の中では環境面で有利な射出成形部門が同 10.0%増の 1,100 トンに増加し、展伸材部門とその他合金部門は横ばいの安定的な推移となり、それぞれ 700 トン、100 トンとなった。構造材全体では、新規案件が少なく減少が続くこととなった。
- ③純マグネシウムを使用する添加材向けでは、長引くロシア・ウクライナ問題の関係で国内生産が増えているチタン製錬部門が前年比 65.5%増の 1,200 トンに増加したが、その他の部門は、自動車分野などで回復の遅れが続いた影響により、アルミ合金添加部門が同 3.3%減の 14,500 トン、鉄鋼脱硫部門が同 9.4%減の 3,080 トン、ノジュラー鋳鉄部門が同 11.5%減の 2,300 トン、化学・触媒部門が同 6.7%減の 1,400 トンと減少での推移となった。
- ④防食その他は、毎年約 100 トンであった防食向けは若干の減少であったが、その他の特殊な用途における需要量が大きく減少したことにより、前年比 30.4%減の 800 トンとなった。
- ⑤輸出は、財務省貿易統計の純マグネシウム地金とマグネシウム合金地金の合計より算出している。

<2024 年の需要予測>

- ①マグネシウムを循環利用するチタン製錬部門は、大きな需要増加した後は新材の使用が落ち着くことから、前年比 16.7%減の 1,000 トンに減少すると予測した。
- ②その他の分野は、2023 年後半から半導体や自動車の生産が回復傾向となり、マグネシウム原料の価格も落ち着いて安定的に推移していることから、需要回復が見込まれる。一方で、新規用途の案件はまだ少なく、また、構造材向けでは LCA の重要性の高まり、添加材向けではリサイクルの強化による新材の使用減が、マグネシウムの需要にも関係してくるものと見られる。2024 年の需要量は、大幅増はいかないものの、各分野で 1 割前後の需要増が見込まれ、構造材向けが同 8.0%増で 6,900 トン、添加材向けが同 4.1%増の 23,400 トンなどに増加すると予測した。
- ③2024 年の国内マグネシウム総需要量は、同 5.7%増の 31,700 トンと、2022 年並みに回復すると予測した。

以上